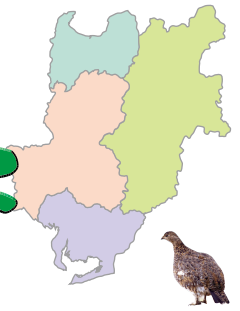




国民の森林・国有林

広報

中部の森林



中部森林管理局

〒380-8575長野市大字栗田715-5

☎050-3160-6513

http://rinya.maff.go.jp/chubu/



握手を交わす城土局長と古田岐阜県知事

森林づくりの推進に関する覚書を

岐阜県と中部森林管理局が締結！

(P2に関連記事)

主な項目	○ 岐阜県と森林づくりの推進に関する覚書を締結	P2
	○ 平成21年度中部森林管理局決算概要	P2
	○ 風景紀行	P6

岐阜県と森林づくりの推進に関する覚書を締結

【計画課】 中部森林管理局と岐阜県は、

「岐阜県における健全で豊かな森林づくりの推進に関する覚書」を締結することとし、平成二十二年九月二日（木）、岐阜県庁において締結式を行いました。岐阜県内の森林は約八十六万ヘクタあり、そのうち民有林は六十八万ヘクタ、国有林は十八万ヘクタとなっています。

農林水産省では、昨年十二月に十年後の木材自給率五十%以上を目標とした「森林・林業再生プラン」を策定するとともに、本年六月には、その目標を実現するため、「民有林と国有林が一体と



覚書に署名する城土局長（左）と古田岐阜県知事

なって効率的に路網整備や間伐等の森林整備に取り組むための森林共同施業団地の設定を推進すること」などを柱とした「森林・林業の再生に向けた改革の姿」を公表しました。

また、岐阜県は、全国に先駆けて「健全で豊かな森林づくりプロジェクト」による民有林の施業の集約化や建設業界の林業への参入を促進する「林建協働」など、地域の森林・林業・木材産業の活性化を図るために先進的な取組を進めています。

このような状況の中、今回締結した覚書は、岐阜県内の森林の持つ多面的機能の持続的な発揮及び木材の安定供給等を目的として岐阜県内の国有林を所管する中部森林管理局と民有林を所管する岐阜県が連携・協力し、作業路網の整備や間伐等の森林整備に効果的に取り組む「森林共同施業団地」の設定等を進めることとしており、東海地方としては初めてのものです。

今後は、双方が協力しながら具体的な団地の設定に向け、情報交換や現地検討会の開催などを進めていきます。

平成二十一年度 中部森林管理局決算概要

【経理課】 去る九月三日（金）、平成二十一年度中部森林管理局の決算概要を公表しました。

平成二十一年度の決算は、森林の公益的機能の維持増進、地球温暖化防止対策に積極的に取り組むとともに、財政の健全化に努めた結果、収支では十四億三千万円の収入超過となりました。

また、損益計算上では、三十五億三千万円の損失となりました。

◆発生収支

収入のうち、事業収入の大宗を占める林産物等収入は、新設住宅着工戸数が減少する中、間伐材の積極的な売り払いに努めたところであるが、木材価格の低迷などにより、前年度より四億三千万円減の三十億円となりました。

林野等売払代は、大型物件が少なくなったため、前年度より三億五千万円減の三億二千万円となり、自己収入全体では前年度より七億七千万円減の四十億二千万円となりました。

一方、一般会計からの受入金金は、治山事業の事業量が二十年度に比べて増加したこと等から、前年度より三十八億五千万円増の二百七十七億四千万円となりました。

また、借換借入金金は、前年度より七億七千万円増の百十八億三千万円となりました。

支出については、職員数の適正化等に努めたことにより、給与経費等は前年度より五億円減の六十四億八千万円となりました。

森林環境保全整備事業費については、

地球温暖化防止等に資する森林整備を推進したことにより、前年度より二十八億四千万円増の八十一億三千万円となりました。

治山事業費については、二十年度に比べ、事業量が増加したこと等から、前年度より十四億五千万円増の百十九億九千万円となりました。

借入金に係る償還金・利子は、前年度より六億円増の百二十八億八千万円となりました。

以上の結果、四百四十五億六千万円の収入に対し、支出は四百三十一億四千万円で、十四億三千万円の収入超過となりました。

◆損益計算

売上高等の減少、減価償却費・資産除却損等の増加により、損益計算上の損失は前年度より七億九千万円増加して三十五億三千万円となりました。



決算概要の公表の様子

「親子森林探検隊の八ヶ岳」
を開催

「指導普及課」 九月四日（土）、小中学生の親子・家族を対象に、自然散策や登山、森林浴を通じ、親子・家族が一緒になって、北八ヶ岳の豊かな自然を満喫しながら、森林の役割について理解を深めてもらうことを目的とした「親子森林探検隊in八ヶ岳」を、十四組、総勢四十二名の親子・家族の参加を得て、南佐久郡佐久穂町の北八ヶ岳自然休養林において開催しました。



白駒池にて記念撮影

当日の北八ヶ岳周辺は、晴天に恵まれ、九月とは思えないほどの強い日差し



丸山の頂上に立つ登山コース参加者

が降り注ぐ中、参加者の皆さんは、スタート地点の麦草ヒュッテ（麦草峠）において、日本鹿による食害についての説明を受けた後、眺望が素晴らしい丸山・高見石までの登山コースと神秘的森が広がる白駒池周辺の自然散策と森林の学習コースに分かれ、原生林の中を歩きながら北八ヶ岳の大自然を満喫しました。

登山コースでは、親子・家族、また参加者同士が助け合いながら標高二千三百三十メートルの丸山や二千二百六十五メートルの高見石の頂に到達し、澄みきった青空のもと、目に飛び込んでくる周囲の山々や白駒池等の情景に、皆さんが驚きと感動の表情を浮かべていました。



楽しみながら池の周辺を散策

また、散策コースでは、麦草峠から白駒池まで、森林インストラクターによる森の学習やゲーム、池の周遊散策を楽しみながら、苔が作り出した緑のじゅうたんに彩られた幻想的な森の雰囲気や満喫し、親子が仲良く動植物に目を凝らしながら、自然とのふれあいを楽しんでいる姿が数多くみられました。

白駒池の湖畔では、下山した登山班の皆さんを散策班が出迎え、参加した全員が無事登頂を終えた達成感と、自然とのふれあいを満喫した満足感に浸りながら、帰路に着きました。

中には冬期の積雪のために折れているものもあり、スカウトたちは、冬の厳しさを実感しながらも、生き残った苗木に頼もしさを感じながら、鎌で丁寧に草を刈り払い、苗木の目印テープを新しく付



苗木に目印テープを付け替えるスカウトたち

この森は、昨年ガールスカウト長野県支部が四十五周年を記念してブナ等の広葉樹を植栽しました。

各地からのたより
私たちの森を育てる
ガールスカウトの森

「北信署」 七月四日（日）、ガールスカウト長野県支部に所属する三十六名が戸隠山国有林内に設定されている「ガールスカウト第三の森」で下草刈りを行いました。